隠れた奈良の魅力再発見

とっておきの奈良 Vol.37

大和高田市本町・市町地区

町家に近代建築に江戸からつながる商人の町

古代からの主要街道・横大路沿いにあって栄えたこの地は、江戸・慶長5年（1600年）に「高田御坊」の名で親しまれている専立寺が建立されて以降、寺内町として発展した商いの町。庇護を求める商人たちは「寺の瓦が見えるところで商いがしたい」と、時流に合わせて居住まいを変えながら商いを続けてきました。

大和高田が木綿の産地であったことから、この地は江戸期から〝いとへんの町〟でもありました。明治から大正、昭和と続く紡績業の発展にともない、隆盛時には南北約400m、東西約200mの地区内に3つの銀行があったほど。うち2つの建物は今も現存。大正ロマンや昭和モダンが薫り立つ洋館は、町家が連なる町並みのアクセントとなっています。一方、伝統的な町家も、多くは往時の姿を留め空き家はほとんどなし。変わらぬ商いの営みと寺内町の暮らしやすさを物語っています。

そんな町を盛り上げるのが、寺内町ならではのお祭りです。今も昔も集いの場であり続ける専立寺のお盆万灯会では、境内夜店に子どもたちの歓声があふれます。秋祭りでは本町、市町から一基ずつ出るだんじりが、天神社から町内を曳行。県外からの人出も多く、往時のにぎわいで町の人の心を一つに結びます。

レトロビル
①（株）森川商店本社ビル
②モリモトデンキ
③宮城医院

町家
④中川印刷所
⑤當麻邸
⑥村島邸

「だんじり」
壮麗な細工を凝らした「本町壱」のだんじり。もう1基の「高田地車」とともに明治初期のもの。今年の秋祭りは10月7日（日）・8日（祝）に行われる。

「村島邸」
江戸期建築。長州藩との交易にも尽力した豪商、村島邸。尊王攘夷派の志士、梅田雲濱の妻の実家でもある。

「森川商店本社ビル」
大正末期のレトロな洋館は旧大和貯蓄銀行。当時のままの優雅な姿を見せる。吸収合併後、昭和50年頃まで南都銀行が営業。現在は森川商店本社ビル。

「本町・市町地区まちづくり協議会」
高田は商人の町、そして寺内町らしく、人と人の距離が近い。安心・安全な住み心地のいい町だから、和気あいあいと集い合う。そんな皆さんに歴史や文化を伝えたり、落語会などのイベントや清掃活動でさらに親睦を深め、町の人の笑顔のために活動しています。
（談：脇屋真一会長（専立寺住職））

問 本町・市町地区まちづくり協議会 ☎0745-52-5180（専立寺）

「専立寺」
大門横の太鼓楼は寺内町のシンボル的存在。時計が普及する明治までは太鼓が時を知らせ、行事の開始を告げた。